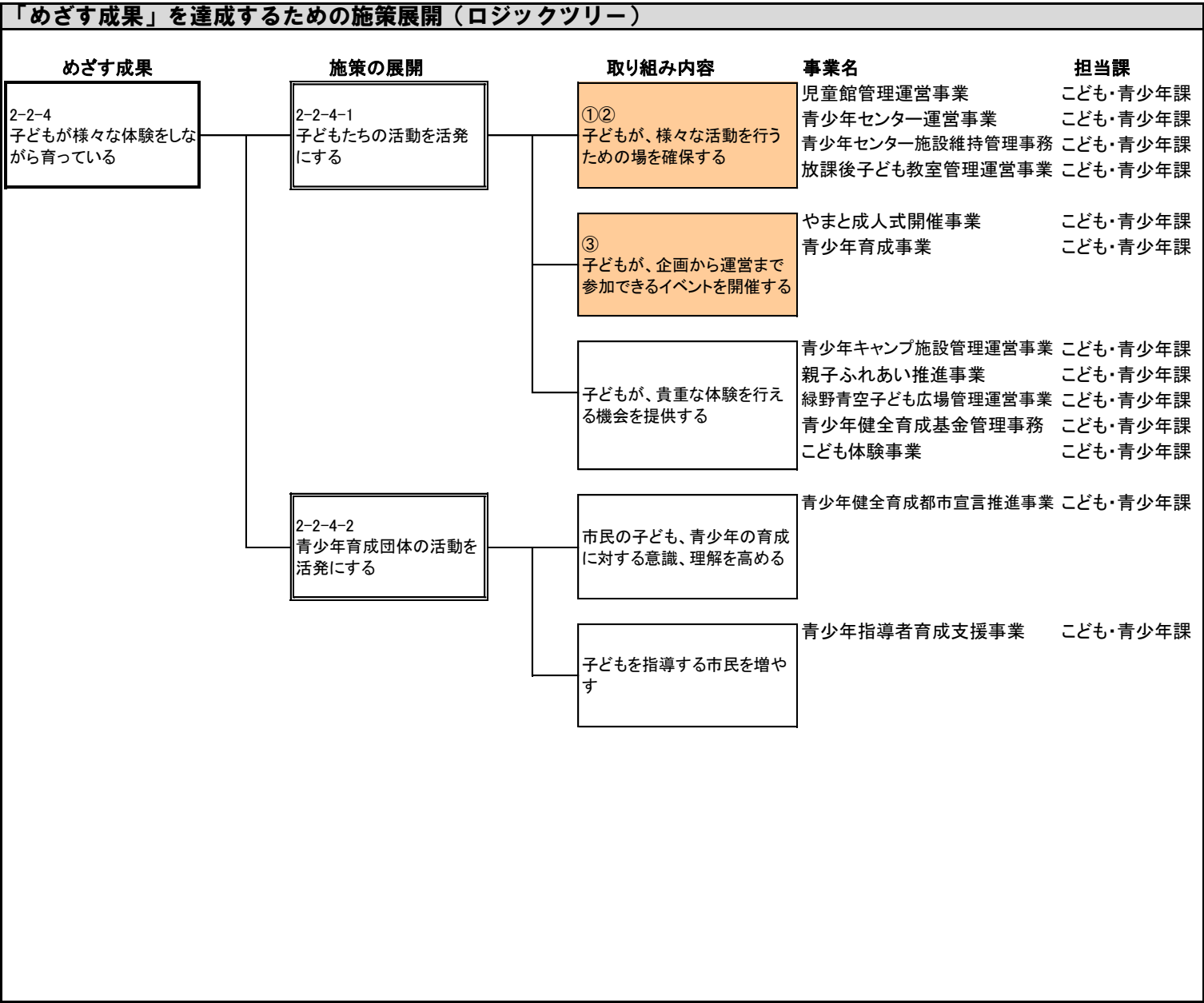


平成28年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
2-2-4 子どもが様々な体験をしながら育っている		
総合計画体系	健康領域・基本目標	人の健康・子どもが生き生きと育つまち
	個別目標	子どもの生きる力を育む
	めざす成果	子どもが様々な体験をしながら育っている
		生活の中で、様々な居場所や体験の場が整い、子どもが豊かな人間性、社会性を身につけています。



成果を計る主な指標	指標の名称	前期基本計画			後期基本計画			
		計画策定時 (H20)	最終目標値 (H25)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	中間目標値 (H28)	最終目標値 (H30)
	① 放課後子ども教室参加率			7.7%	6.7%	8.0%	9.0%	10.0%
	② 児童館の1日あたりの平均利用者数（全22館）	502人	506人	442人	473人	437人	450人	450人
	③ 中高生ボランティア参加者数	33人 (夏季のみ)	53人 (夏季のみ)	110人	83人	79人	120人	125人

所 管 部	こども部
平成27年度までの取り組み内容	【子どもたちの活動を活発にする】 - こども体験事業、やまと成人式開催事業においては、公募による青少年を中心とした実行委員会に事業を委託したことで、独自性のある内容とすることができました。 - 特にやまと成人式においては、新成人式研究会（文科省後援）が主催する成人式大賞において、昨年引き続き「優秀賞」を受賞しました。 - 放課後子ども教室においては、一旦帰宅してからの参加を原則としていましたが、放課後に直接参加できるよう改善を行いました。 【青少年育成団体の活動を活発にする】 - 青少年健全育成都市宣言推進事業においては、健全育成大会の司会を大会の主役である青少年（中学生）が初めて務めました。
構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	- 平成30年4月に、青少年センターを図書館跡施設へ移転する予定のため、青少年センターに登録している団体や利用者等に対して十分な周知を行う必要があります。 - また、移転後は貸館機能を設けないことから、青少年育成団体に対し、新たな活動場所を紹介するとともに、団体連携が活性化する方法について検討する必要があります。 - 青少年育成事業について、青少年センター移転後の開催場所・方法等を検討する必要があります。 - 青少年センター移転後の青少年育成団体活動拠点の使用方法等を検討する必要があります。 - 放課後子ども教室管理運営事業については、他の放課後事業（放課後児童クラブ、放課後寺子屋やまと）との連携を強化し、多学年の交流が活性化する仕組みづくりについて、検討する必要があります。
今後の展開方針	注）例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案	- 青少年センターの移転に伴い、移転費用等が生じます。 （該当する事務事業） - 青少年センター運営事業 - 青少年センター施設維持管理事務
既存事業の拡充	（該当する事務事業）
事業の廃止・縮減	- このまさわキャンプ場の借り上げについては、平成28年度で廃止し、市内の施設を活用した新たな事業について検討します。 （該当する事務事業） - 青少年キャンプ施設管理運営事業
事業の効率化	- 放課後児童を対象とした他の事業との連携について検討します。 （該当する事務事業） - 放課後子ども教室管理運営事業
その他見直し	（該当する事務事業）